



実用新案登録願

(1,500円)

昭和49年 6月 8日

特許庁長官 齋藤 英雄

1. 考案の名称

タオルペーパー等腰のある紙の
引出し容器

2. 考案者

住所 東京都新宿区諏訪町127万ワレツチ1-5号
氏名 アイダ 相田 勝美

3. 実用新案登録出願人

住所 静岡県島田市4379番地
氏名(名称) トウカイ 東海パルプ株式会社

4. 代理人 代表者 トウカイ 幸二
郵便番号 105

住所 東京都港区芝西久保明舟町12第3三交ビル
氏名 (6760) 弁理士 高木 八次

TEL (580) - 5541

5. 添附書類の目録

1. 明細書	1通
2. 図面	1通
3. 委任状	1通
4. 権利書	1通
5. 出願審査請求書	1通

49-066495

明 細 書

1. 考案の名称

タオルペーパー等腰のある紙の引出し容器

2. 実用新案登録請求の範囲

容器主体の天頂面に長孔を透設し、該長孔の長辺にそれぞれ対向的に先端部が互に接触あるいは近接する舌片を延設してなるタオルペーパー等腰のある紙の引出し容器。

3. 考案の詳細な説明

この考案はタオルペーパーのような腰のある紙を二つ折りあるいは三つ折りして、その多数枚を端部が互に絡み合うように重ねて収容し、最初の紙の1枚を引出すと次の紙の端部が次の引出しに備えて外部に現われ、順次1枚宛引出すことのできるタオルペーパー等腰のある紙の引出し容器に関する。

この種の容器では次の引出しに備えて外部に現われた紙の端部を確実に保持し、再び容器内に引戻されることのないようにしなければならない。

この点ティッシュペーパーのような紙自体が柔軟なものでは要するに容器に設けた紙の引出し口を小さくして形成し、紙を絞るようにして引出すならば、次の引出しに備えて外部に現われた紙の端部は引出口にて絞られるために容器内に再び引戻されるようなことがないが、タオルペーパーのように腰のある紙の場合は、容器に小さな引出し口を形成した場合には紙を引出すときの抵抗が特に大きくなり、容器自体が持ち上つてしまいスムーズな引出しができないし、反面引出し口を大きく形成すれば次の引出しに備えて外部に現われた紙の端部が容器内に再び引戻されてしまつて実用に供し得なかつた。

この考案は上記の点に鑑み案出したものである。

以下この考案の一実施例を図面にもとすいて説明すると、(1)は紙製の容器本体で、その内部にはタオルペーパーのような腰のある紙（以下単に紙という）aの1枚を三つ折りb、b'し、その多数枚を端部c、c'が互に絡み合うように重ねて収容されている。(2)は容器本体(1)の天頂面(2)に長手方

向に沿つて透設した長孔で、紙 a の全巾に相当する長さをもつとともに、その長辺にはそれぞれ対向的に先端部が互に接触あるいは近接した山形状の舌片 (4) , (4)' が延設されている。従つて容器本体 (1) 内の紙 a はこの舌片 (4) , (4)' の先端部間を通して外部に引出されることとなる。この舌片 (4) , (4)' は紙 a の引出しに際して紙 a に抵抗するが容易に上方に反るために紙 a に必要以上の抵抗を与えることなく、しかも紙 a が引出された後はただちに旧位に復して次の引出しに備えて外部に現われた紙の端部を確実に把持するように働くものである。しかして簡便舌片 (4) , (4)' の上記作用は舌片 (4) , (4)' を長孔 (3) の長辺中央部に 1 対だけ対向的に設けるだけでもよいが、舌片 (4) , (4)' の働きをより確実に行わせるためには、あるいはデザイン上の効果を考慮するときは第 1 図示のように長孔 (3) の長辺の両端寄りに 1 対ずつ設けることがよい。

なお舌片 (4) , (4)' を有する長孔 (3) の長さを、使用する紙 a の巾より若干短かくし紙 a の両端が長孔 (3) の短辺に軽く接触するようにしておくこともあ

る。このようにしておくならば舌片(4)、(4)'の働きと相俟つて次の引出しに備えて外部に現われた紙の端部が容器内に再び引戻されることをより有効に防止できるし、紙の両端がわずかでも長孔(3)の短辺により内方へ押出されれば、外部に現われた紙の端部cは容器の天頂面に対して直角方向に立上り紙の端部がつまみ易くなるという効果も期待できるようになるからである。

この考案は以上のように構成したから、容器本体(1)内の紙aを引出す場合は、最初の1枚の紙の端部cを長孔(3)の舌片(4)、(4)'間を通して第2図示のように外部に出しておき、その端部cを第3図Aのように上方へ引張るようにすれば紙aは三つ折りb、b'した折目が伸ばされながら長孔(3)の舌片(4)、(4)'を通過するが、この場合の抵抗は第1の折目が通過するときには第1の折目側の舌片(4)が第3図Aのように上方に反り、第2の折目が通過するときには第2の折目側の舌片(4)'が第3図Bのように上方に反るので、舌片(4)、(4)'が紙に必要以上に引張り抵抗を与えて引出しにくくするような



ことが全くないものである。

また最初の紙 a の端部 c に絡み合っている次の紙 a の端部 c の端縁は最初の紙 a の第 2 の折目に内接しているので、最初の紙 a の第 2 の折目が舌片 (4) を反らせながら舌片 (4) , (4)' 間を通過すると同時に次の紙 a の端部が通過し、第 3 図 C のように次の引出しに備えて容器本体 (1) の外部に正確に現われる。しかも最初の紙 a が完全に引出された後は舌片 (4) , (4)' はただちに旧位に復するので、次の引出しに備えて外部に現われた次の紙 a の端部は第 3 図 D のように舌片 (4) , (4)' に確実に把持され、再び容器本体 (1) 内に引戻されるようなことがない。

このようにこの考案は容器本体 (1) 内に収容した紙 a は舌片 (4) , (4)' を有する長孔 (3) からその全巾に亘つて引出されるとともに、次の引出しに備えて外部に現われた次の紙の端部は舌片 (4) , (4)' により確実に把持され、これが再び内部に引戻されることがないので、タオルペーパーのような腰のある紙の引出し容器に使用して優れた効果を奏するものである。

またこの考案は、第4図示のようなホルダー(5)とともに壁面等に容器の天頂面が前面となるように架設すれば体裁よく便利に使用することができ、しかもこの場合でもロール巻したタオルペーパーのように壁面から出張ることが少なく邪魔になるようなことがないものである。

4. 図面の簡単な説明

図はこの考案の一実施例を示し、第1図はその斜視図、第2図は容器本体内に収容した紙の端部が外部に引出された場合の断面斜視図、第3図A、B、C、Dは舌片の作用状態をそれぞれ示す断面図、第4図はホルダーを使用して壁面に架設した場合の斜視図である。

(1) ... 容器本体、(2) ... 天頂面、(3) ... 長孔、(4)、(4)' ... 舌片、a ... 紙、b、b' ... 折目、c、c' ... 紙の端部。

実用新案登録出願人

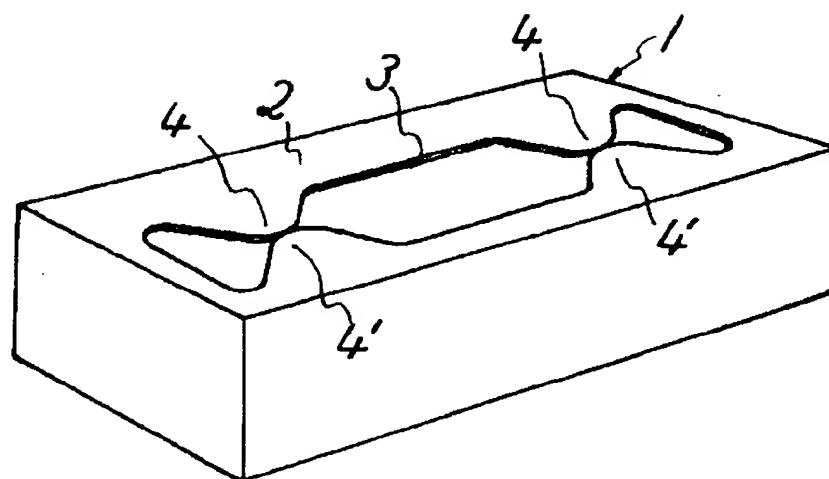
東海パルプ株式会社

代理人

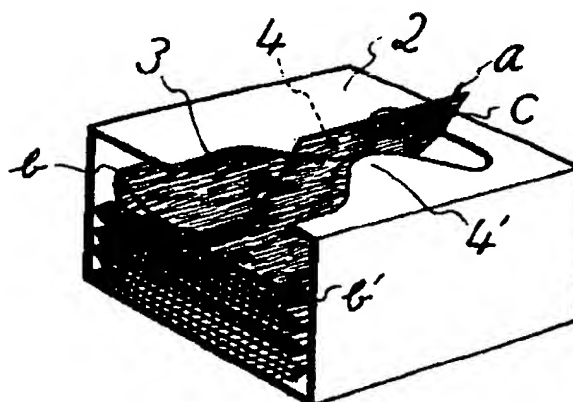
高木 八



第 1 図



第 2 図



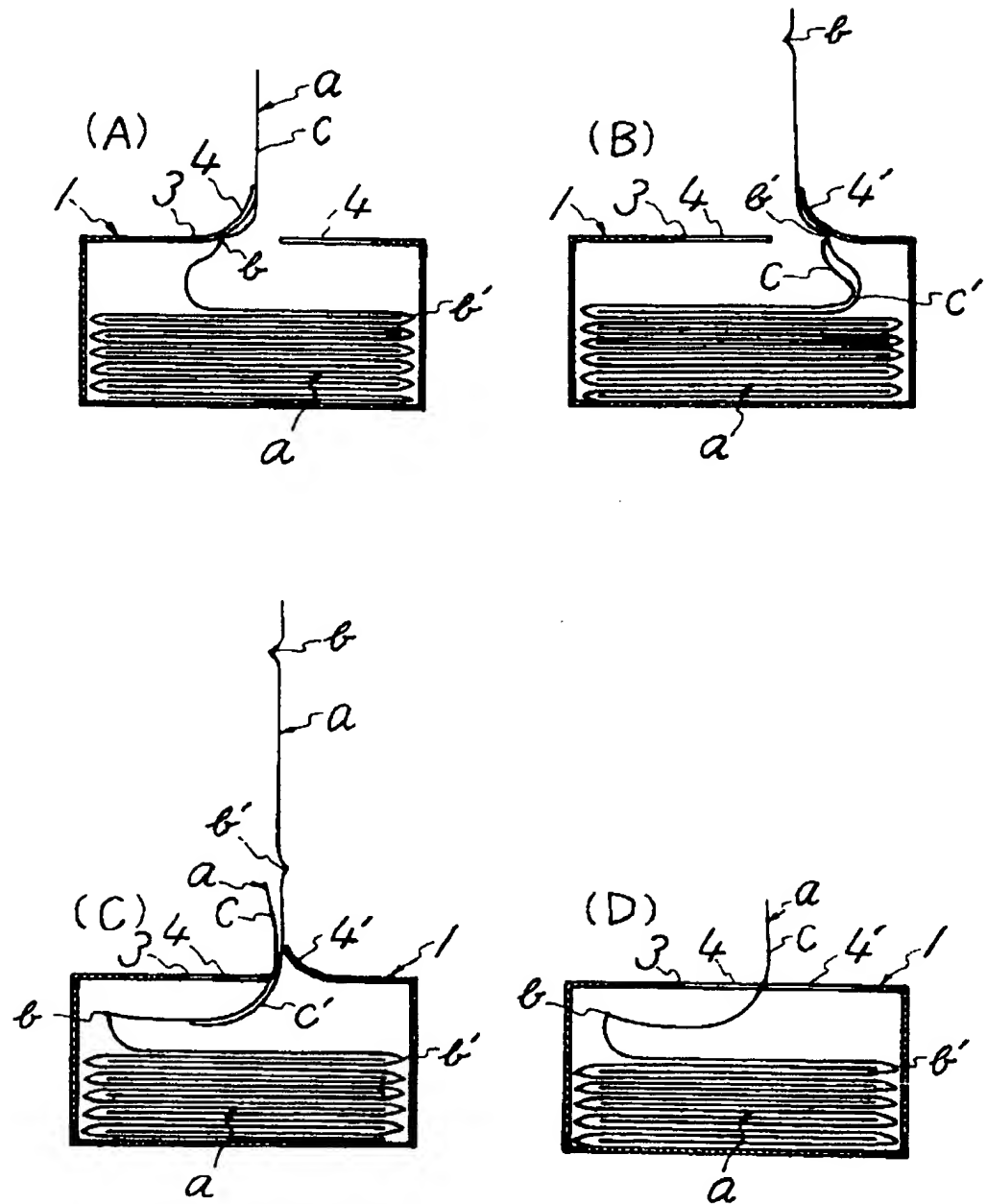
154329^{1/3}

実用新案登録出願人

東海パルプ株式会社

代理人

高木 八次



154329.

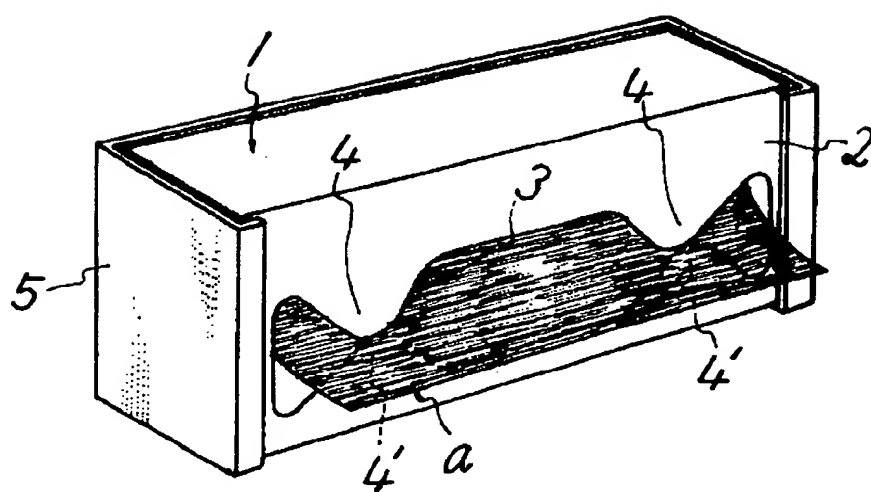
人 員 通 過 檢 查

株式会社フジ

人 人 人

四 本 八 页

第 4 図



154323
3/3

実用新案登録出願人

東海パルプ株式会社

代理人

高木 八次